鉄鋼概況

4～6 月の粗鋼生産計画改善 消費増税の影響は限定的

鉄鋼エコノミスト　左近司 忠政

4 月の輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比 11.3%減と 8 カ月連続で減少し，全鉄鋼輸入は前年同月比 27.6%増と 6 カ月連続で増加した。2014 年度 4～6 月期の鉄鋼各社の生産計画で，粗鋼生産は前期比 0.5%増，前年同期比では 1.3%減で年率 1 億 1 千万トンと引き続き高水準の生産を維持する。国内高炉４社の 2014 年 3 月期の決算は，国内の景気回復，円高修正などによる販売数量増と価格改善，コスト削減努力などによって４社ともに増収・大幅増益となった。普通鋼電炉メーカー16 社の前期決算は，販売量の増加と販価の上昇により総じて増収となったが，主原料高や電力高などが利益を圧迫した。4 月の世界（65 カ国）の粗鋼生産量は，前年同月比では 1.7%増と３カ月連続で増加したが，前月比では 3.5%減で 2 カ月ぶりの減少となった。

ゐゐゐ

財務省が発表した 4 月の鉄鋼貿易統計によると，輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比 11.3%減の 320 万 2,000 トンと 8 カ月連続で減少した。建設を中心に国内需要が端境期ということもあり，一部のミルは再び輸出に積極姿勢をみせたが，タイの政治混乱，新興国の景気減速，海外市況の低迷などで減速が続いた。一方，全鉄鋼輸入は前年同月比 27.6%増の 76 万 1,400 万トンと 6 カ月連続で増加した。前月比では 11.1%減だが，円安傾向にも関わらず高い水準が続いている。鉄鋼輸出の主要国・地域の向け先をみると，アジア向けが前年同月比 9.1%減の 261 万 5,000 トンで，このうち中国は 9.7%減の 50 万 9,000 トン，NIE's は 12.4%減の 96 万 8,000 トン，ASEAN は 11.6%減の 99 万 2,000 トンとなっている。また，米国向けは 39.7%減の 12 万 8,000 トン，中東向けは 34.2%減の 7 万 6,000 トン，ロシア向けが 70.0%減の 4,000 トンとなっている。鉄鋼輸入の相手地域別内訳は，アジアからが同 30.1%増の 64 万 5,600 トンで，このうち中国が 70.7%増の 14 万 6,800 トン，NIE's が 17.3%増の 44 万 5,000 トン，ASEAN が 3.2%増の 3 万 3,800 トンとなっている。

◆4～6 月期粗鋼生産計画，2,770 万トン

経済産業省が集計した 2014 年度第 1 四半期（4～6 月）の鉄鋼各社の生産計画によると，粗鋼生産は前期比 27 万トン，0.5%増の 2,770 万トンとなり，同省が先月予測した見通しより 69 万トン増となった。前年同期比では高炉改修の影響などで 1.3%減となるが，年率 1 億 1 千万トンと引き続き高水準の生産を維持する。消費増税後の反動減が懸念されていたが，鉄鋼メーカーの生産活動については，その影響は限定的となる模様である。普通鋼鋼材生産は前期比 0.2%増の 1,914 万トンと微増するが，特殊鋼鋼材生産は同 1,8%減の 509 万トンとなり，鋼材生産合計では同 0.2%減の 2,423 万トンとわずかながら 6 期ぶりの減少となる。

普通鋼鋼材の国内向けは前期比 0.5%減と 2 期連続で減少するが，高炉では薄板類が設備改修が集中して同 1.3%減となり，電炉は前期に大雪の影響で減産した小形棒鋼の増産などから同 1.0%増となる。輸出向けは前期比 1.2%増と 2 期連続で増加するが，高炉ではブリキ原板需要が増えるタイ向け冷延薄板類の増加などで同 0.5%増となり，電炉は韓国向けスポット案件が寄与するなどで 28.1%増となる。

特殊鋼鋼材の国内向けは消費増税の駆け込み需要の反動による自動車向けの減などで 2.3%減と 2 期連続の減，輸出向けは 0.9%減と 2 期ぶりの減となる。

◆鉄鋼企業の前期決算，総じて改善

新日鉄住金，JFE ホールディングス，神戸製鋼所，日新製鋼の高炉 4 社の 2014 年 3 月期の決算は，国内の景気回復，円高修正などによる販売数量増と価格改善，コスト削減努力などによって，一貫製鉄業の収益が好転し，四社ともに増収・大幅増益となった。新日鉄住金の経常利益は前期（旧両社単純合算）比 4.1 倍の 3,610 億円，JFEHD が 3.3 倍増の 1,736 億円，神鋼が 181 億円の赤字から 850 億円の黒字，日新も 168 億円の赤字から 197 億円の黒字となった。2015 年 3 月期の業績予想は，原料・鋼材価格などの見通しが不透明として，神鋼を除く三社が公表を見送った。

普通鋼電炉メーカー16 社の前期決算は，販売量の増加と販価の上昇により総じて増収となったが，主原料の鉄スクラップ価格が販価を上回って上昇し，電力高もあって利益を圧迫した。なかでも，販価改善が緩やかだった棒鋼メーカーで 5 社が経常赤字となった。

大同特殊鋼，愛知製鋼，山陽特殊製鋼，三菱製鋼，日本高周波鋼業の特殊鋼専業の前期決算は，電力・燃料費の上昇分を販売価格に転嫁できなかったが，自動車向けを中心とし

た販売数量増やコストダウン効果でカバーして増益となった。唯一，収益が悪化した日本高周波鋼業も富山製造所の 3 千トンプレスの故障が響いたためで，これを除くと黒字転換したことになる。今期も自動車需要に支えられて安定収益を維持できるとみている。

新日鉄住金ステンレス，日新製鋼ステンレス部門，日本冶金工業，日本金属のステンレスメーカー4 社の決算は，販売数量の増加，マージン（原料コストと製品販売価格の差）改善，コスト削減効果に加え，在庫評価益も生じ，揃って黒字化した。

淀川製鋼所，日鉄住金鋼板，JFE 鋼板のカラー大手 3 社の決算は，住宅・非住宅ともに需要が好転し，太陽光発電屋根関連向けも好調で，また適正価格への根戻しに取り組んだことも加わり，経常利益は淀川製鋼所が前年度比 2 ケタ増，日鉄住金鋼板と JFE 鋼板が 3 ケタ増と大幅増益となった。

表－1　国内高炉4社の 2014 年 3 月期業績

（△は赤字）

	売上高（億円）	経常利益（億円）	純利益（億円）	配当（円）	有利子負債（億円）	粗鋼生産（万トン）	平均単価（円／トン）
新日鉄住金	55,161	3,610	2,427	5	22,963	4,567	86,000
	43,899	769	△1,245	1	25,430	4,355	80,100
JFEHD	36,668	1,736	1023	40	15,340	2,867	75,700
	31,891	522	395	20	15,963	2,797	70,600
神戸製鋼所	18,246	850	701	4	7,481	762	80,200
	16,855	△181	△269	0	9,076	701	77,200
	19,500	800	500	－	7,000程度	765	－
日新製鋼	5,764	197	177	15	3,235	393	123,000
	5,189	△168	△373	5	3,335	390	113,000

（注1）粗鋼生産と販売単価は単独ベース（JFEHDはJFEスチールの数値）
（注2）神戸製鋼所の有利子負債残高はプロジェクトファイナンスを含まない
（注3）下段は前期、神鋼の中段は前期、下段は次期予想
（注4）新日鉄住金、JFEHD、日新製鋼は次期予想開示を見送り

◆4 月の世界粗鋼生産，前月比 2 カ月ぶり減

世界鉄鋼協会（WSA）がとりまとめた 4 月の世界（65 カ国）の粗鋼生産量は，前年同月比 1.7%増の 1 億 3,662 万 6,000 トンと 3 カ月連続で前年同月実績を上回った。しかし，前月比では 3.5%減となり 2 カ月ぶりの減少となった。操業率は 78.7%と前年同月比 1.2 ポイント，前月比 0.3 ポイント低下した。4 月の 65 カ国の日産量は，前月比 0.3%減と 4 カ月ぶりに減少した。中国の日産量は 1.3%増と 2 カ月連続で伸びた一方，中国以外は 1.8%減と 4 カ月ぶりに減った。新興国の 4 月の日産量は，韓国では前月比 0.8%減と 2 カ月ぶりに減少し，インドは横這い微増と 2 カ月ぶりに増え，ブラジルは 4.4%減と 4 カ月ぶりに減った。先進国では，EU28 カ国は 2.3%減と 4 カ月ぶりに減り，北米は 2.4%減と 2 カ月連続で減，日本は 5.0%減と 2 カ月ぶりに減った。1～4 月の 65 カ国の粗鋼生産累計は前年同期比 2.5%増の 5 億 4,302 万 5,000 トンとなり，年率では 16 億 5,000 万トンと初の 16 億トンに到達することが確実なペースとなっている。 ❑